

岡山大学のたばこ対策(2)—学生の喫煙率、喫煙志向度、個別禁煙指導—

岡山大学保健環境センター 堀田 勝幸・絹見 佳子・戸部 和夫

【はじめに】大学にとって学生の喫煙習慣を阻止することは重要な課題である。当学では禁煙啓発を続けるとともに効果的な方法を模索している。

【目的】①H3年から7年ごとの学生の喫煙率の推移を分析する、②入学時非喫煙男子学生を対象として喫煙志向度を検討する；入学後喫煙を開始した学生を対象としてその要因を検討する、③喫煙学生に対する個別禁煙指導の結果を明らかにする。

【方法】①喫煙率：定期健康診断時のアンケート結果を参考にし、H3、10、17年度について集計した。②喫煙志向度：H15とH17年度の喫煙習慣のない男子新入生(学部)の入学時健診の際、「喫煙志向度」として「入学後あなたはタバコを、A：絶対吸わない、B：ほぼ吸わない、C：もしかしたら吸うかもしれない、D：多分吸うようになるだろう、E：確実に吸うだろう」のどれかを選択して貰い、1年または2年後に喫煙開始の有無を調査した。また、入学時に「A」または「B」と回答後、喫煙を開始した学生に対し、その経緯について面接調査を行った。③個別禁煙指導：H15年～H18年に、禁煙希望の来談者へニコチンパッチを処方し禁煙指導を行い、禁煙継続率等を算出した。

【結果】①喫煙率：H3、10、17年度の男子受診者全体の喫煙率は22.5%、16.2%、8.2%、各々の年度の1年～4年生までの学年別喫煙率は、H3年；13.9%、20.5%、27.5%、35.0%、H17年；6.9%、15.1%、18.4%、29.3%、H17年；2.3%、6.6%、10.9%、15.6%で、入学～卒業までの1学年毎の喫煙率の増加割合は、H3年；7.0%/年、H10年；7.0%/年、H17年；4.4%/年であった。②H17年度の喫煙志向度選択率と1年後の喫煙率は、A；86.7%；3.2%、B；10.6%；9.4%、C；2.5%；16.7%、D；

0.2%；100%で、両者間に有意な相関があった($p<0.05$)。H15年度も類似した結果であった。また、入学時に「吸わない」と回答後、喫煙に転じた学生33人のうち、25人(76%)に面接調査を行ったところ、開始理由の最多は「友人の喫煙」であった。③個別禁煙指導は30人(男/女:24人/6人)に行った。禁煙継続者の観察期間中央値はわずか10日であり、1ヶ月後、1年後禁煙継続率はそれぞれ53%(16人)、7%(2人)であった。

【考察】学生全体の喫煙率はこの15年間で大きく低下したが、一方で学年が上がるにつれ喫煙率は未だ増加傾向にある。また入学～卒業までの喫煙開始学生の増加率は、H3、H10年度と比べH17年度は鈍化しており、H15の健康増進法施行およびそれに関連した当学のタバコ対策が一定の功を奏している可能性が示唆された。喫煙志向度とその後の喫煙開始率には有意な関係があり、今後、志向度別に禁煙啓発を強化する予定である。また、入学後喫煙に転じた学生における喫煙開始の主因は「友人の喫煙」であり、入学後周囲の環境などに影響を強く受けた結果であることが示唆された。より効率的な喫煙習慣阻止活動のために、「吸わない」から喫煙に転じる要因をさらに解析すべきと考えた。個別禁煙指導については、当該学生が定期的に来所しないため経過が追えず、支援が難しい状況であり、禁煙継続率は低値であった。これは、学生にとってタバコの健康被害に対する恐れはなく、目的意識が明確でないなどの背景が考えられる。但し、学内の禁煙支援体制を喫煙学生に知らせることは、今後の禁煙意識向上に繋がるものと思われ、受動喫煙防止の徹底やタバコ教育とともに重要なタバコ対策の一環として、根気よく継続していく必要があると考えた。